



第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／眞鍋 幸一 愛媛県 国立大洲青少年交流の家 所長
奥畑 俊昭 福岡県教育庁京築教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方 10:45~10:50

1 廃校舎活用の新たな試み～限界集落の負けない底力～ 10:50~11:20

上村 博雅(山口県岩国市) ふるさとづくり推進協議会
篠田 三宣(山口県岩国市) ふるさとづくり推進協議会
田中 時子(山口県岩国市) ふるさとづくり推進協議会

平成12年度、長谷小学校が休校になり、その活用策の検討が始まる。長谷地区は4自治会、人口212人、109世帯、高齢化率51.4%（平成25年7月現在）の集落。平成17年に地域支援ネット「かぜ」が立ち上がり、小学生対象のキャンプやチェーンソー体験講座など、後に長谷地区ふるさとづくり推進協議会と連携する事業が企画実施される。同年に「岩国往来まちづくり協議会」の主唱で岩国往来の整備事業が始まり、長谷地区の協議会も積極的に参加。平成28年4月には旧長谷小学校グラウンドに長谷交流館が落成し、市長から篠田三宣に館の鍵が渡された。長谷地区は江戸時代から和紙作りが盛んだったことから、中学校と連携して三桎・楮（みつまた・こうぞ）の植栽に取り組み、旧校舎で和紙作りもした。平成23年からは「ほたる祭り」を始め、また美和町放課後子ども教室の活動拠点にもなっている。

2 歌とダンスで村の魅力発信!
～ほせえ村からこんには、元気もりもり日吉津村～ 11:25~11:55

井田 博之(鳥取県日吉津村) 日吉津村教育委員会 教育長

平成28年、住民有志から「ひえづのうた」制作の支援要望書が教育長に提出され、「ひえづのうた」制作委員会を中心となりDVDを制作した。歌詞は村民からの公募、DVD映像にはドローンを使い撮影された四季折々の村の様子を取り込んだ。福祉保健課は「ひえづのうた」を活用し「元気もりもり体操」を制作。DVDは村内全戸に配布され、歌は保育所や小学校の協力で園児や小学生にも浸透、防災無線、時報、電話の保留メロディ、にも使用され村内外にアピールできた。

3 小学校留守家庭子ども会での活動 12:00~12:30

中馬 綾香(福岡県福岡市) Little Hands 代表

2005年創立、今年で13年目をむかえる九州大学・筑紫女学園大学の学生約100名が所属する学生サークル。学生達が留守家庭子ども会（学童）や小学校に定期的に訪れて、一緒に遊ぶ、勉強を教えるなど、子どもたちと交流し、「お兄さん」や「お姉さん」のような役割を果たすことで、子どもが楽しみながら成長するきっかけを作る。福岡市内の小学生を対象に、留守家庭子ども会及び子ども会育成連合会と連携して、放課後の学習指導、工作イベント、運動イベント等、地域密着型の子育て支援を実施。平成29年度学生地域活動大賞の最優秀賞を受賞している。